

泌尿紀要
Acta Urol. Jpn.

Vol. 31, No. 5 ACTA UROLOGICA JAPONICA May 1985

泌尿器科紀要

第31巻 第5号 1985年5月

ラット腎結石形成に及ぼす Etidronate Disodium (EHDP) の効果	川村 寿一・ほか	749
ヒト腎細胞癌由来培養細胞 KU-2 の異質性について		
—KU-2 クローン株の NK 細胞傷害能に対する感受性—	早川 正道・ほか	763
膀胱癌再発に対する Bleomycin 加温水灌流療法の効果	西村 一男・ほか	769
脊損患者の膀胱機能回復—急性期無菌間歇導尿管管理法の 違いによる尿路予後の検討—(英文)	岩坪 暎二・ほか	775
ヒト前立腺肥大症組織の腺上皮および間質における 男性ホルモン受容体と 5 α -リダクテース活性について	大石 賢二・ほか	785
原発性上皮小体機能亢進症の2例	中本 貴久・ほか	791
Cushing 症候群を呈した副腎皮質癌に対し術後再発予防として Cis-platinum を使用した1例	石川 成明・ほか	801
老人にみられた褐色細胞腫の1例	諸角 誠人・ほか	807
下大静脈平滑筋肉腫の1例	郷司 和男・ほか	813
腎癌に対する拡大根治手術—胸腹式アプローチおよび 肝の剝離によって摘除しえた下大静脈内腫瘍血栓の1例—	有吉 朝美・小松 潔	821
転移性尿管腫瘍の1例	寛 善行・ほか	827
膀胱頸部および腔に同時開口した尿管異所開口の1例	三浦 猛・ほか	833
先天性膀胱腫瘍の1例	伊藤 哲二・ほか	839
前立腺悪性リンパ腫の1例	原 真・ほか	845
不妊を主訴とした XX-male の1例	笹川五十次・ほか	849
46, XX 真性半陰陽の1例—本邦例37例の集計と 治療における若干の考察—	福田 百邦・ほか	857
Ceftizoxime (CZX) の前立腺組織内移行に関する検討	星 宣次・ほか	863
Cefoperazone (CPZ) 大量投与による前立腺組織内移行について	吉田 英機・ほか	871
進行前立腺癌に対する Peplomycin の持続皮下注入 療法の検討	佐竹 一郎・田利 清信	875
前立腺肥大症に対する Lisuride hydrogen maleate (SH-1072) の臨床効果—治療成績と作用機作に関する考察—	岡田謙一郎・ほか	885
外来慢性尿路感染症患者に対する Cinoxacin (Cinobact) [®] の 長期間投与について	松本 純一・ほか	895
ロバペロン錠 (KN-7) の排尿障害に対する長期投与試験	山田 薫・ほか	901
硫酸アミカシンの局所投与の検討	和田 誠次・ほか	907

Editor: Prof. Osamu YOSHIDA, M. D.

Department of Urology, Faculty of Medicine,
Kyoto University, Kyoto Japan 606
京都大学医学部泌尿器科学教室

購読要項 (1983年1月改訂)

1. 発行は毎月、年12回とし、年間購読者を会員とする。
2. 会員は年間予約購読料6,000円(送料とも)を前納する。払込みは振替に限る。口座番号 京都5-4772番 泌尿器科紀要編集部宛。
3. 入会は氏名、住所を記入のうえ編集部にてはがきにて申し込めば所定の用紙を送付します。

投稿規定 (1983年8月改訂)

1. 投稿：連名者を含めて会員に限る。
2. 原稿：泌尿器科学領域の全般にわたり、総説、原著、症例報告、そのほかで和文または英文とする。
 - (1) 普通論文の長さは、原則として、刷上り本文7頁(400字×28枚程度)図(Fig)10枚、表(Table)5枚までとする。
 - (2) 和文原稿はB5版400字詰原稿用紙横書き、楷書、当用漢字、現代かなづかい、平がなとし、清書する。文中欧語の固有名詞は大文字で、普通名詞は小文字で始め、タイプし、年号は西暦とする。
 - (イ) 原稿の表紙に標題、所属機関名、著者名の順に和文で併記する。下段に筆頭著者名(山田：または山田・ほか：)と、2語(例：前立腺がん・PSA)からなる running title を付す。
 - (ロ) 英文抄録：和文の表紙、本文とは別に標題、著者名、所属機関名、5語(英文)以内の Key words、抄録本文の順にダブルスペースでタイプし、その和訳をつける。
 - (3) 英文原稿はダブルスペースでタイプし、原稿の表紙に標題、著者名、所属機関名、Key words(和文に準ず)、running title(和文に準ず)の順にタイプし、別に標題、所属機関名、著者名、抄録の順に記した和文抄録を付す
 - (4) 数字はすべて算用数字を使用し、単位 m, cm, mm, l, ml, kg, g, mg, μ g, %, °C, pH などとする。
 - (5) 図、表、写真などはすべて別紙とし、写真はトリミングする。説明文は一括して記載し和文、英文を問わず Table 1., Fig. 2. などとする。英文が望ましい。原稿右欄外に挿入さるべき位置を明示する。図・表は誤りのないことを確認のうえ、トレースとて紙焼したものが望ましい。様式については本誌の図・表を参照する。
- (6) 引用文献は必要最少限にとどめ、引用箇所を本文中に入れる。その数は30までが望ましい。和文は楷書で、欧文はタイプする。
(例：山田^{1,3,7)}、田中ら^{1,3,~10)}によると)
雑誌の場合—著者名(全員)：題名、雑誌名
巻：最初頁～最終頁、発行年
単行本の場合—著者名(全員)：題名、書名、編集者名、版数、巻数、引用頁、発行所、出版地、発行年
- (7) 原稿を返却しないのでコピーを手元に残しオリジナルを書留で〒606 京都市左京区聖護院川原町54 京大病院泌尿器科紀要編集部宛送付する。
- (8) 投稿原稿は編集委員会においてその採否を決定し、それに従って編集部は原稿の訂正、書き直しまたは返却を指定する権限を保持する。
- (9) 校正は初校を著者による責任校正とし、再校以降は編集部がおこなう。著者複数の場合校正責任者を投稿時指定する。

3. 掲載

- (1) 論文の掲載は採用順とする。迅速掲載には迅速掲載料を要する。
- (2) 紙代、印刷費および最初1頁の組版費は編集部で負担する。残額を実費負担とし、請求は論文掲載誌発行後におこなう。論文の長さが超過した場合、超過料を別途に申し受ける。
- (3) 薬剤の効果、測定試薬の成績、治療機具の使用などにかんする研究論文については、掲載料を別途に申し受ける。

4. 別刷

実費負担とし、著者校正時に部数を指定する。

編集委員：石神 襄次 前川 正信 宮崎 重 新谷 浩
 園田 孝夫 友吉 唯夫 吉田 修(主幹)

泌尿器科紀要 第31巻 第5号 1985年5月25日 印刷 1985年5月31日 発行
発行 吉田 修 顧問 加藤 篤二 発行所 泌尿器科紀要刊行会
〒606 京都市左京区聖護院川原町54 京都大学医学部泌尿器科学教室内 電話(075)751-3327(直通)
印刷所：山代印刷株式会社 京都市上京区寺之内通小川西入
